

加美町生活支援体制整備事業
第1層協議体 資料 (R6.7.25)

地域資源の把握について

社会福祉法人加美町社会福祉協議会

生活支援コーディネーター

板垣 充 今野 大 千葉 敬博

そもそも地域資源とは？

- ▶ 暮らしの中の何気ない『つながり』や『支えあい』のこと。
- ▶ 通称『地域のお宝』と呼んでいます。
- ▶ ほかに地域ならではの『自然』『歴史』『文化』『習慣』などなどお宝は無限にあります。
- ▶ 具体的には『お茶っこ飲み会』『ラジオ体操』『ウォーキング』『花いっぱい運動』や『初午の寅舞』『夏まつり』『ナイトバザール』などのイベントも素敵で大切な地域のお宝。
- ▶ これまでに発掘した地域資源については【資料2】を参照。

社協に来所された方から情報を寄せていただいたり、地域に出向いて取材したり、公用車を運転中に偶然見つけたり...

では、地域資源（お宝）があることで、 地域にとってどんな良いことがあるか？

- ▶ たとえば『笑いが集うほっこり
広場』の場合。
- ▶ 毎朝 8 時半近くになると西上野
目行政区 1 班（14 世帯）の人
が自然と集まり、おらほのラジ
オ体操が始まる。



実際に地域にとって良かったこと

▶ その①

こども園の送り迎えや職場へ出勤する人、ごみ収集の業者の方など、道行く人と「おはようございまーす」「いってらっしゃ〜い」のあいさつを交わすようになった。

→ 子供たちとふれあえることで、参加者の笑顔率がさらにグーンとアップ。お互いに見守り、見守られる関係に。

▶ その②

尾花沢からサクランボやスイカを売りに来る通称“山形のおじさん”が“毎朝立ち寄って朝ご飯を食べていくようになった。

→ たまに果物を購入するとたくさんオマケしてくれるように。

実際に地域にとって良かったこと

▶ その③

体操後はもちろん『おしゃべりタイム』当初は瓶ビールのケースを逆さまにしたものをイス代わりにしておしゃべりしていたが、見るに見かねた近くの工務店が立派なベンチを作ってくれた。

→ 地元企業の地域貢献活動の受け皿にもなり、暖かくて優しい『つながり』がどんどん増えていくことに。



まとめ

- ▶ ただラジオ体操をやって、おしゃべりをしていただけの活動が、いつの間にか地域の子供から地元企業までをも巻き込んだ素敵な活動に。
- ▶ 今後もさらなる地域資源の発掘（地域のお宝さがし）を進めていきたい。
- ▶ さらに、10月27日に開催予定の『福祉のつどい』で『お宝発表会』を実施して、地域資源の普及・啓発を図る。
- ▶ そして、住み慣れたこの地域で、みんなが大好きな加美町で、自分らしく安心して暮らせる地域づくりにつなげたい。
- ▶ みなさんの身近なところにも素敵な『お宝』ありませんか？